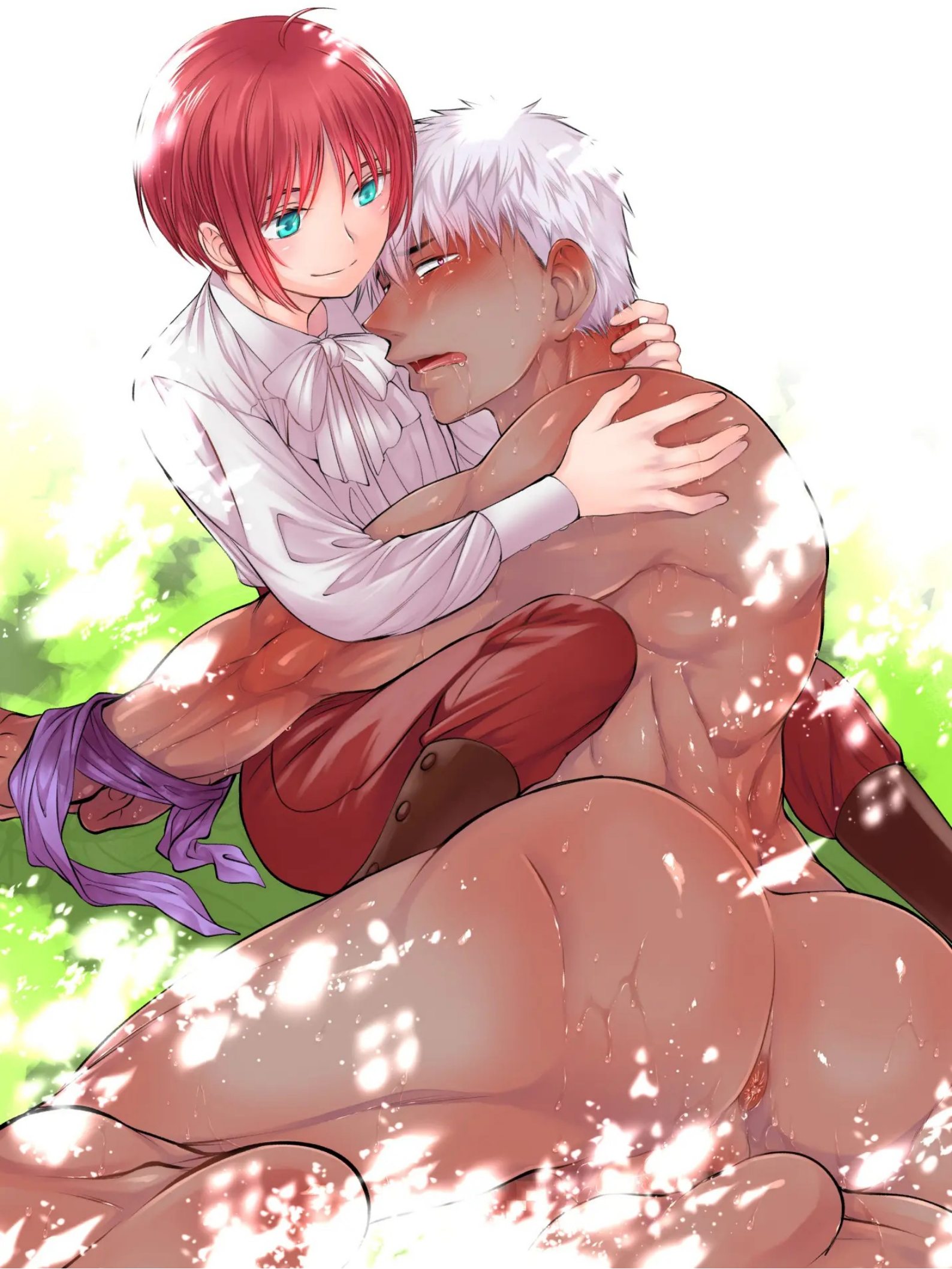




最強戦士は
可憐な運命に
あらかるたい!



この世界には
男女とは別に3つの性がある

世界の人口の多くを占める
ベータと呼ばれる一般庶民



や...いやだ!
触んな!!



やだ...

はあ...

や...

やめろ...

やめて...

王族や貴族支配階級に多いアルファ
男女共に孕ませるための生殖機能を持つ

見ろよチンポが欲しくて
もうグッチョグチョに
濡れてやがるぜ

なんで…
体熱い…
力入んない…

そしてオメガ
その数は極端に少なく
女だけでなく男であっても
孕む事ができる性

淫魔憑きめ

おまえが
俺らを誘惑したんだ

オメガには発情期があり
その甘い香りはアルファを惑わし
理性を奪う

それは時にベータをも
誘惑し獣のように盛る

それ故に彼らは淫魔憑きと呼ばれ
蔑まれる存在であった

淫魔憑き…?
俺が…?

ズグッ

うそだ…
そんな…

だって俺は
ベータ…



俺は淫魔憑き
なんかじゃない…

ちがう…



おまえもしかして
発情期ははじめてか？

発情期…？

べーたにそんなもの
あるわけない…

誘惑なんかしてない…っ



違う…っ
違うの…っ

からだ…
おかしい
なんで…

おい
こいつ自分が淫魔憑きだって
知らなかったみてえだぜ？

知らねえくせに
誘惑してきたのかよ
甘い匂い撒き散らしやがって



オメガだから…
こんな目にあうの

俺…オメガなの…

おら!
もっと啼け!

見ろよ
いい声で啼き始めた
これだからオメガはよお

俺…

匂いも強くなってきた
発情期のオメガやべえな
アルファの理性奪うはずだぜ



こんなのいやだ…ッ

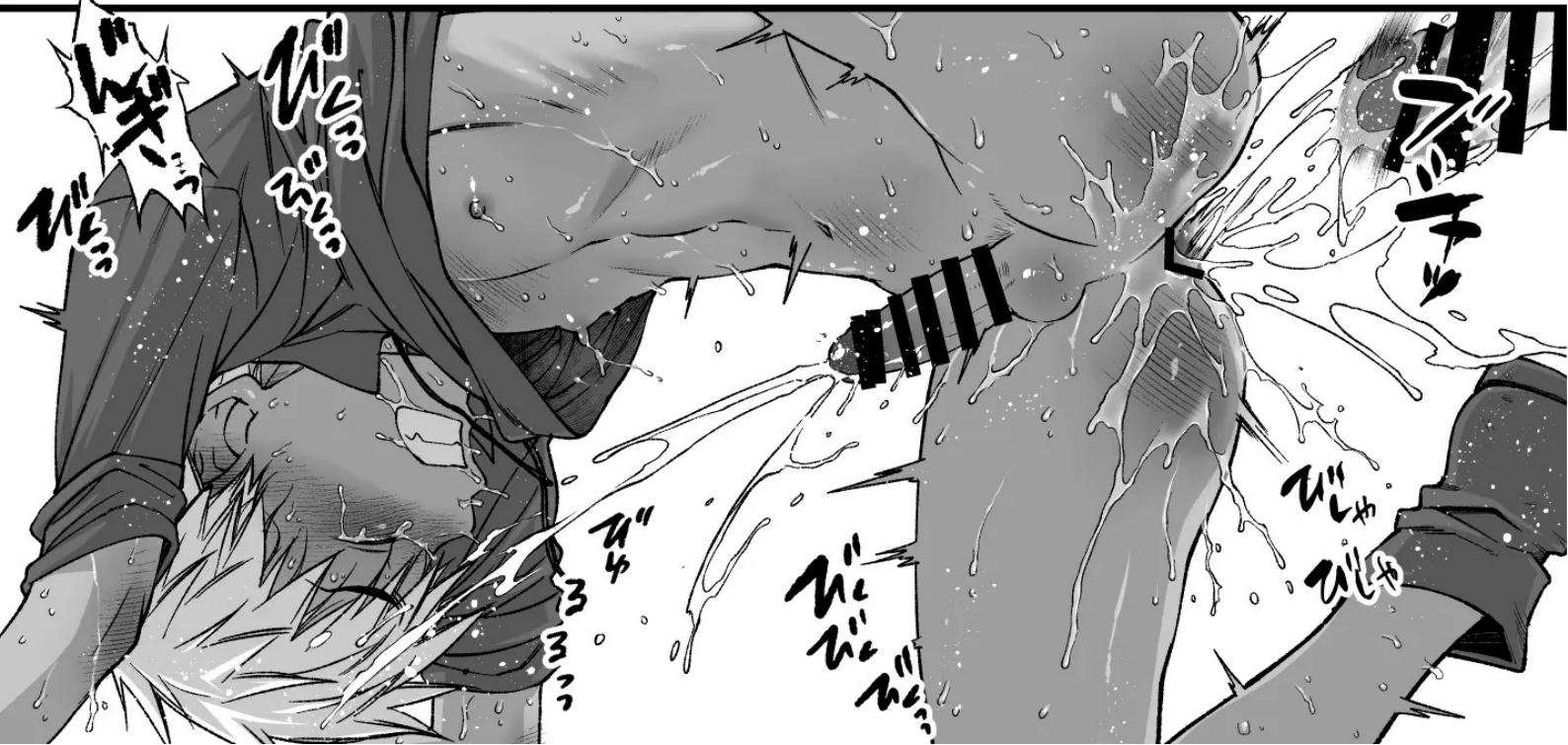
アルファの種しか
孕まねえっていうもんなア
試してみようぜ

いやだ…

こんなに射精されたら
ベータの種でも
孕むんじゃないか?

からだが…
快楽に逆らえない…

孕め!
孕め!
おらッ





オメガはね
アルファにうなじを
噛まれると番にされて
そのアルファに一生
支配されてしまうんだ

番になったオメガは身も心もアルファのものになる…

でもアルファは違うアルファはオメガを捨てられる

ああ…ヴォルフおまえはオメガにならないで…

どこのアルファの番にされて俺を産んで…捨てられて…死んでしまった父さん…

あいつらがアルファだったら…

俺も支配されてたのかもしれない…

俺はそんなのは嫌だ

俺は絶対支配なんかされない

抗ってやる！

その時から俺は俺自身を守るために体を鍛えた

そして誰よりも強くなった



俺はもう誰にも何にも負けねえ

おいあいつ

ドラゴンを一人で倒したらしいぞ…

まじかよ…
あの辺境のハイドラゴンを？
名だたる騎士が挑んでも
無理だったやつを？

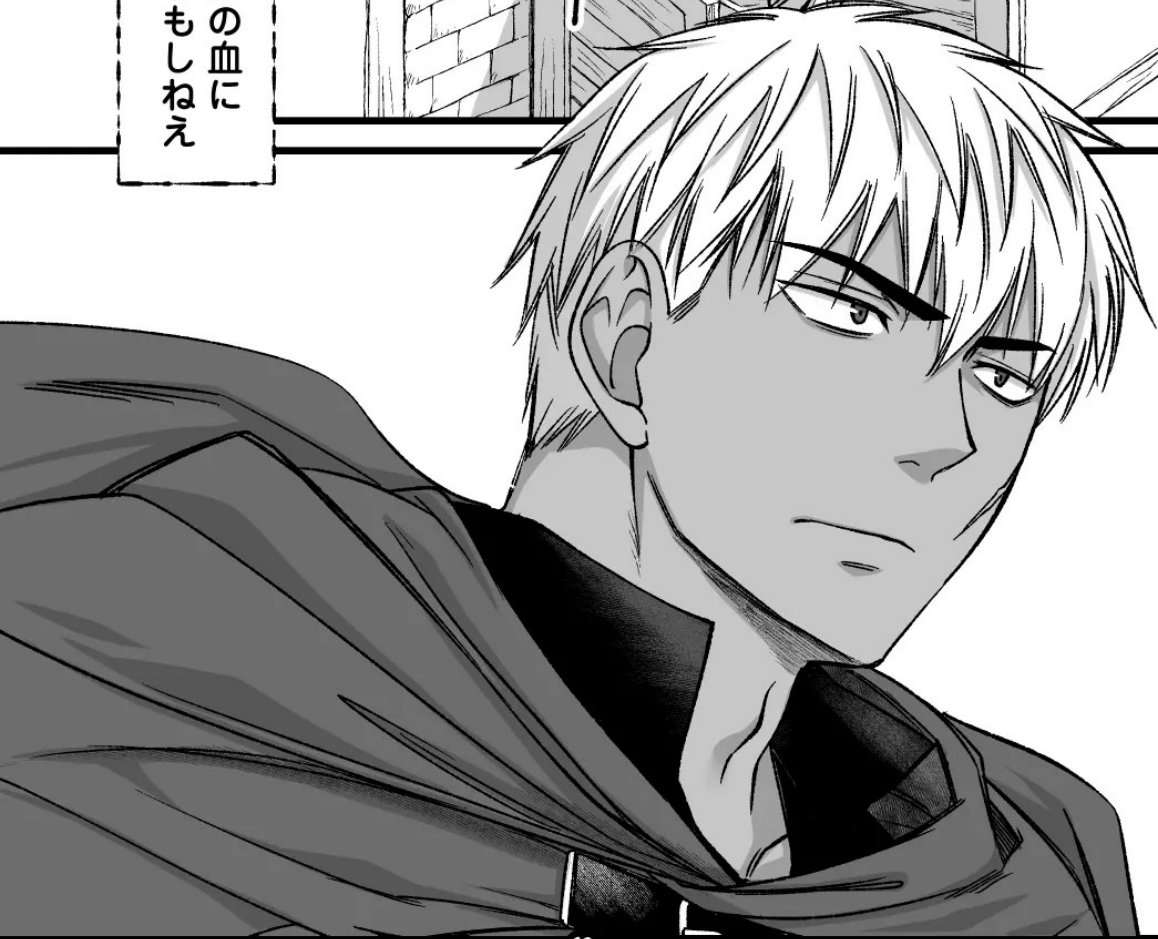
この街に冒険者ギルドはあるか？

それなら
マーケットの外れに…

淫魔憑きと蔑まれた俺は今
最強と呼ばれている

俺はもうオメガの血に
振り回されたりもしねえ

発情期だって抑え込める



そう

思ってたのに





すれ違った瞬間
それは始まった

アハハ



抗いがたい発情



こっちへ!

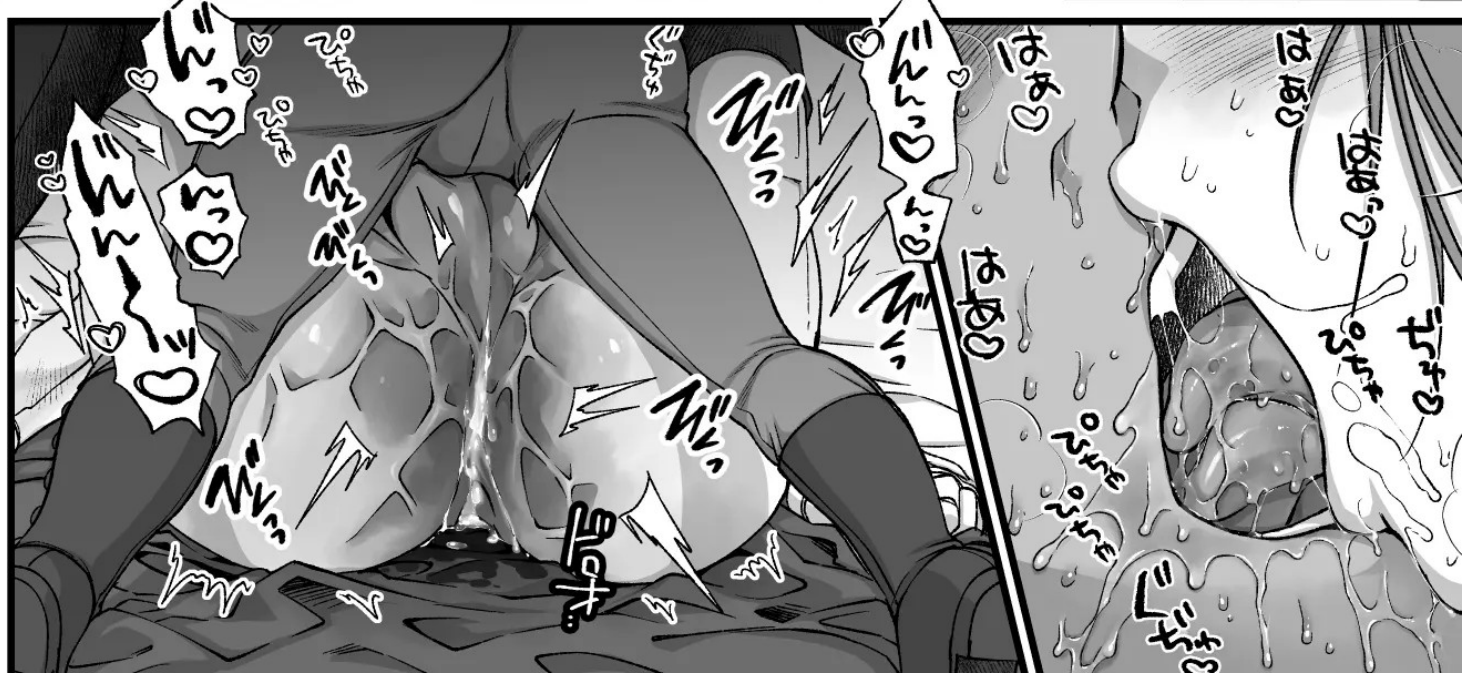
少し我慢して

え...



俺...発情してる...!?

INN





自分から腰を振って…俺は…ッ

なんで…
今までこんな事…ッ



他のアルファの前でも
こんな事…なかったのに

は…入っちゃ…
はいっちゃうっ

だめですッ

あッ

だめ…

あッ

あ

あ



あゝ

孕みたい

孕みたい

このアルファの子を

どうしようもなく孕みたい……ッ

ああ……

あっ♡

ダメ……♡
擦らないで……♡

自分を守って鍛えた数年が

一瞬で無意味になった

あゝ

あゝ

ガクガク

はー♡♡

♡……♡



それから
どのくらい経ったのか...

アルファに跨り
自分から何度も
性器を擦りつけ...

俺が...アルファを...
犯してる...

きもち...きもち...

きもち...きもち...

欲しい...欲しい...

きもち...きもち...

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

びしょ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ

ぼちゃ



止まらなご...

おおおおお

びしょ

あ...

あ...

びしょ

びしょびしょ

びしょびしょ

びしょ...

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ...



あーっ

ああっ

あーっ

あーっ

あーっ



逆りえない...

支配される...

名前...教えて...ください...
ぼくはリユート



あなたの名前を
呼びたい…

はっ

はっ

はっ



そんなもの…
どうだっていい

なま…え…?

なんで…

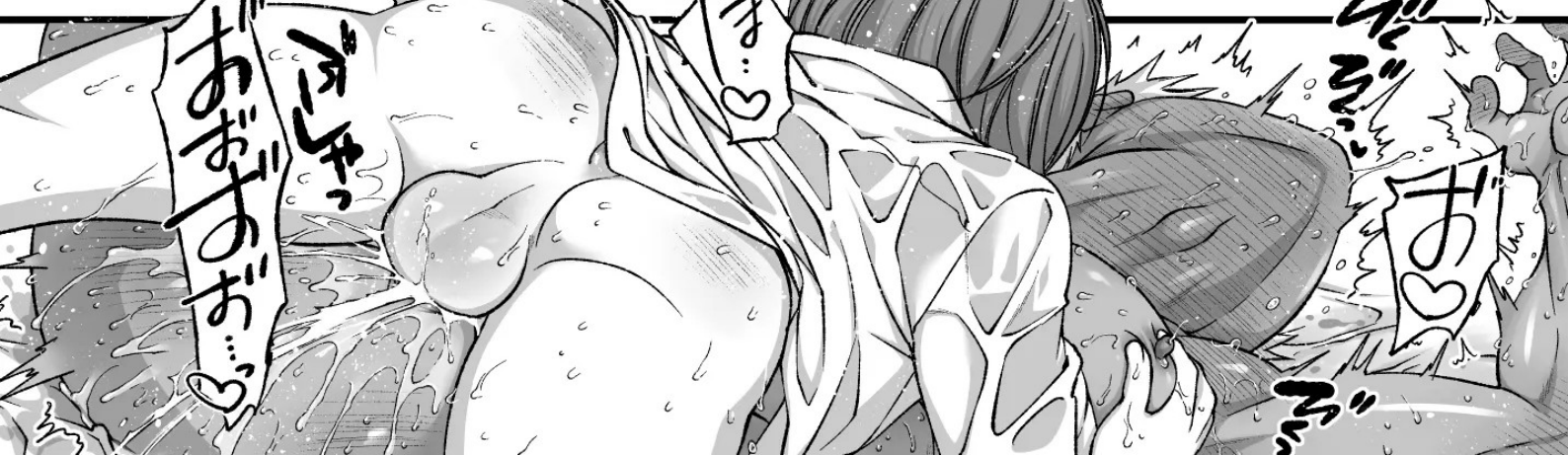
どうせもう…
会うこともねえ…



お…教え…る
意味なんか…

ぼくの名前も
呼んで欲しい…

ねえ…ッ



おおおお…

はっ

はっ

はっ

はっ

一瞬理性が戻っても
すぐに吹き飛ぶ

名前…
教えて？

ヴォ…イス

ヴォイス…っ

ああ…
意味なんてないの…

ヴォイス…

ヴォイス…

こんな…
名を呼ばれるだけで…

よ…ぶな…
呼ぶな…あ



ヴォイス…ぼくの番になつてくださるこ

噛まれ…たい!?

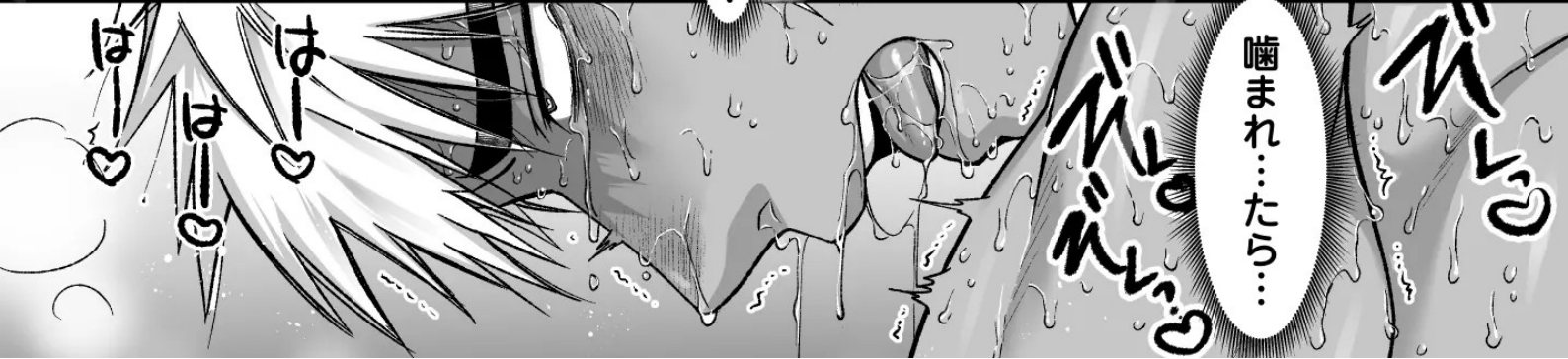
俺…は…番になんか…

お願い…
ぼくのものになつて…

こっだけは…

こっちは…

駄目だ…



噛まれ…たり…

俺…は…番になんか…



奥...熱い...

熱い...

ガッガッガッ

ジュッ

ジュッ

ガッ

ジュッ

ジュッ

ジュッ

ジュッ

ジュッ

ジュッ

ジュッ

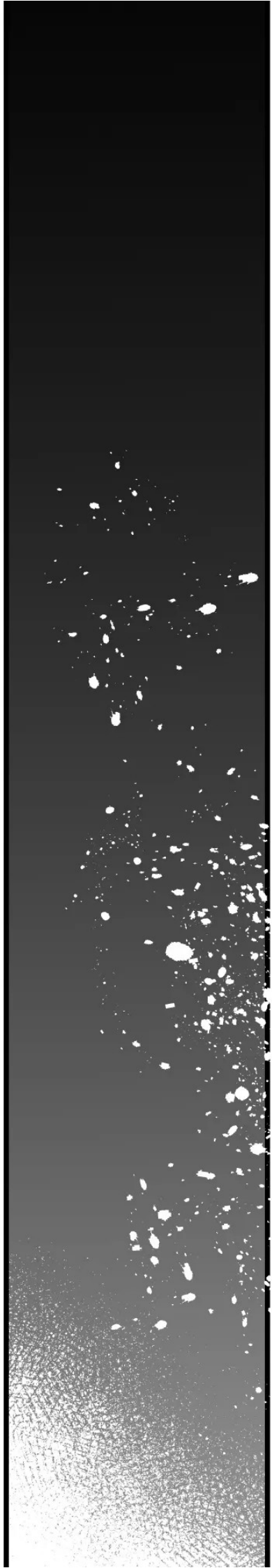
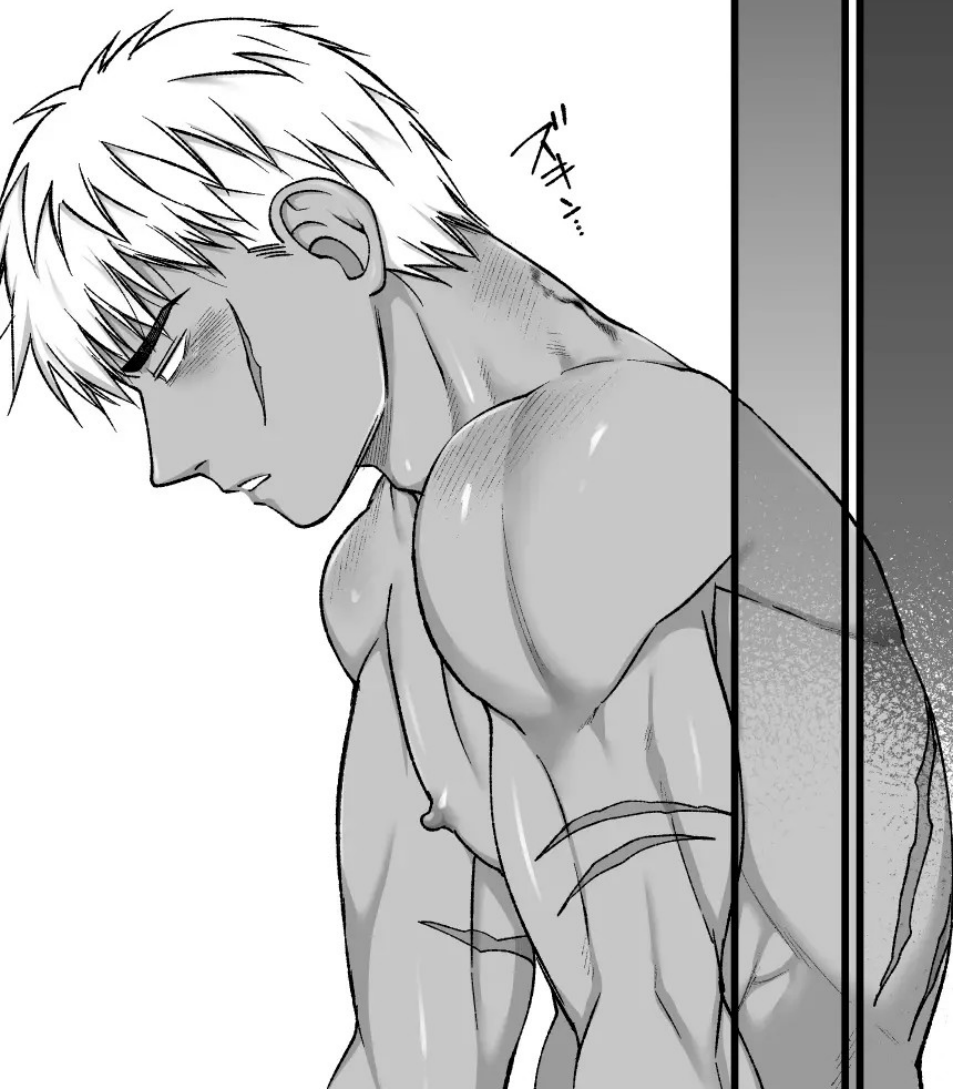
ガッ

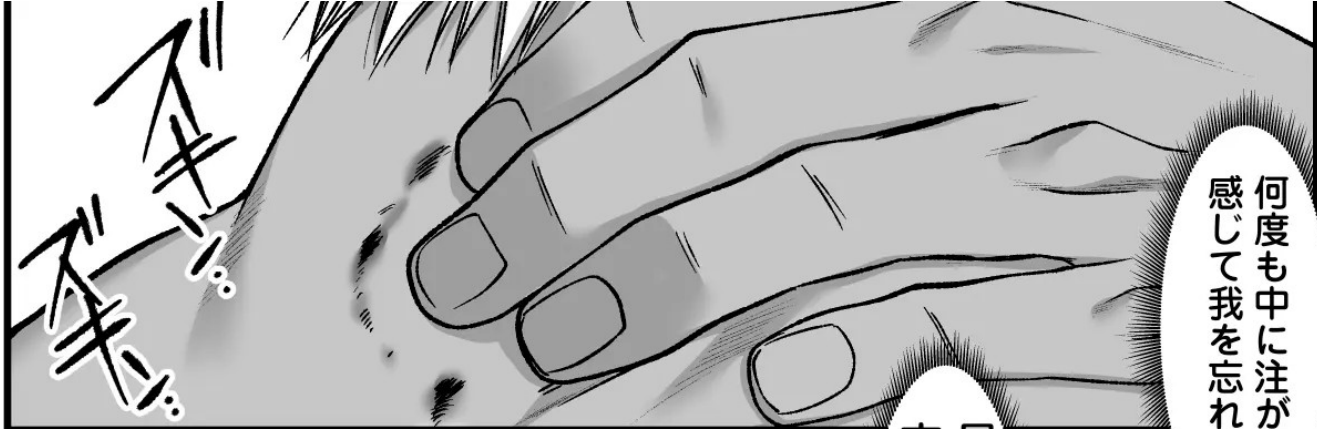
ガッ

ジュッ

ジュッ

結局俺は…
逆らえなかった…





何度も中に注がれて
感じて我を忘れて…

最後には自分から
支配を求めた…



はー!



すっ すっ



後始末されてる…

自分よりでかい男を
どうやって…



こんなガキに…



ズッ

キス

ズッ

ズッ



んんん



こいつが
目覚める前に
逃げないと



ああ…服がぼろぼろだ
どうするか…



逃げないでください…
お願いします…



違います

支配されてるのは
ぼくの方です



俺は…
俺はアルファに
支配されるなんざ
まっぴらだ

運命……って信じますか？

信じねえ……

そんなもんに縛られて……
俺の父さんは死んだ……

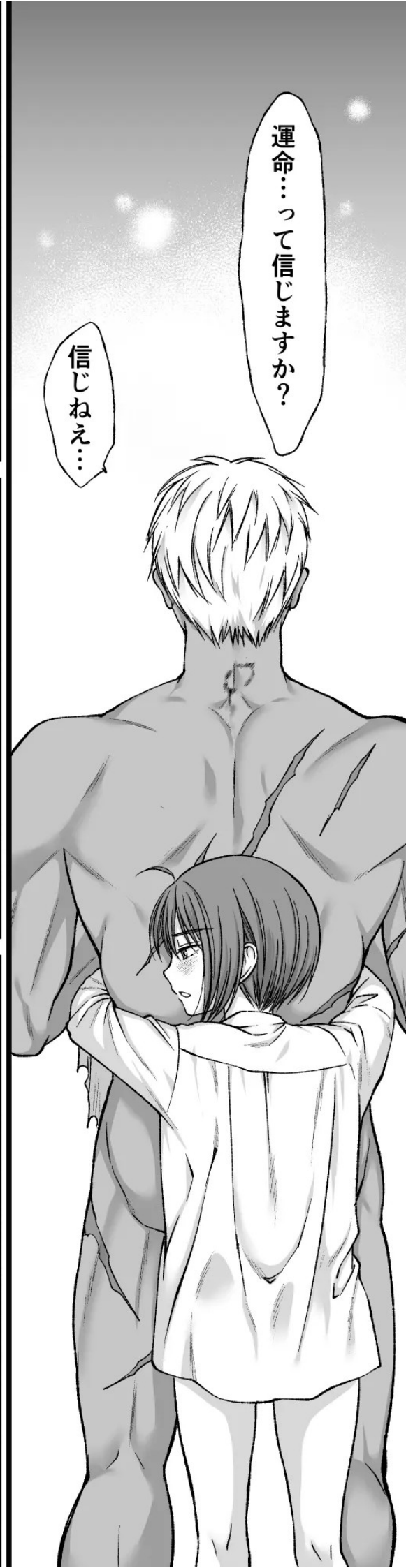
ぼくは信じてます

ずっといつか会えるって
信じて

誰かも知らない
アルファの姫君と
結婚させられそうになって
逃げてきたんです

……姫君……??????

……



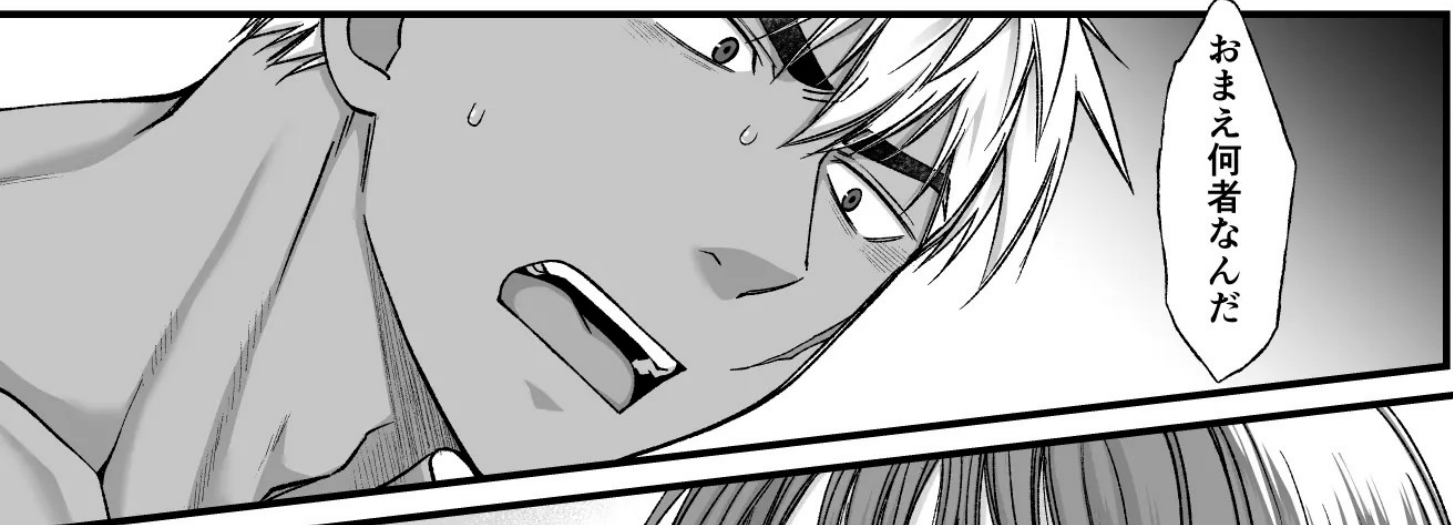


あなたとすれ違った時
運命だってすぐにわか...

おい

ちょっと待て

姫だと？



おまえ何者なんだ



ぼくはこの国の
第13王子ですが

王子!?



そんなの
どうでもいいじゃないですか
第13王子ですよ
継承権もないに等しいですし

よくないだろ!?



どうでもいいんですよ
本当に

国は兄が継ぎますし
結婚だって

ぼくはあなたと
一緒にいたいので



今はまだ
体も小さいしあなたには
敵わないです

でも
いつか追い越して見せます

あなたを守るために



断る!!

だから…
貴方と共にもいいですか?

一生大事にします!

